南北１６０km「心をつなぎ　気概に満ちた」十島の教育

十島村教育委員会だより　令和６年９月号

心わかかーカラ情報

十島村教育委員会
〒892-0822　鹿児島市泉町13番13号　　TEL　099-227-977

【一歩踏み出すだけで，新たな道（未来）が広がります！】

十島村教育委員会教育長　木戸 浩

「秋来ぬと 目にはさやかに見えねども 風の音にぞ驚かれぬる」という古今和歌集に収められている藤原敏行の有名な短歌ですが，今年は猛暑のせいもあり，残暑が長引きました。熱中症も心配されました。「秋」の気配はなかなか感じられないような日々が続いています。そういう中で，新たに義務教育学校となって第１回〇〇学園運動会とされた島もありました。しかし，学校だけの運動会ではなく，島民すべての運動会であるという意義付けで，今までの回数に数を重ねて実施された島もありました。9月に6つの島で運動会が実施されました。10月に残り１島で実施されます。そのあとは直ぐに文化祭も予定されています。学園と地域が一体となった様々な行事が目白押しです。秋分の日を境に，日没も早くなってきています。各地の敬老会も台風の影響で弁当や子どもたち手作りのプレゼントの宅配になったところもあったようです。

行事等は昨年度と同じかもしれませんが，その中身を検討し改善を加えて実施していくことで，新たな想いが付加され，思い出となる行事になっていくと思います。

～　その道に入らんと思う心こそ
我が身ながらの師匠なりけり　（千 利休）～

その道に入らんと
思う心こそ
我が身ながらの
師匠なりけり

（利休百首より）

学ぶ者の心構えを教えています。何事もその道に入りその道を学ばんとするにはまず「志」を立てねばならない。

志を立てずにその道に入るのは目的なしに道を歩き，目的なしに旅をつづけるようなものである。

自発的に学んでみよう，取り組んでみようという「志」があるということは，その人の心の中に，立派な師匠ができていることなのである。そうでければ上達は望めない。

先日，ある資料をめくっていた時にこの歌を見付け，意味を調べてみました。・・・なるほど。“日本一長い”の村，十島村を千利休に応援してもらっているような気分になりました。

令和６年７月２０日　南日本新聞「若い目」

ぼくのアオヤガラ
平島学園三年　内藤　聡一

初めての穴釣りに行きました。でかい魚を釣りたいと思っていました。一メートルぐらいの大物を釣り上げる準備ができていました。

最初に開会式がありました。気を付けることを聞きました。ぼくは海に落ちたくないと思いました。

えさはキビナゴでした。はりを目と体にさします。こわいな、ちょっと気持ちわるいな、と思いました。

はりにつけたキビナゴを海になげたら、とつぜんさおが引っぱられました。とても強い力でした。

ぼくは「まけるかあ」と思って、がんばってやっと釣り上げました。

細長い、初めて見る魚でした。アオヤガラでした。長さは一メートルぐらいありました。「やったあ」と思いました。

家に帰ると、じいじがさしみとからあげにしてくれました。特別においしい味がしました。

令和６年９月５日　南日本新聞「若い目」

売っていない物の味
宝島学園七年　大川　当太郎

僕はアダンの実を初めて食べた。アダンは亜熱帯から熱帯に生えている常緑小高木だ。実の見た目はゴツゴツしていて、パイナップルに似ている。

スーパーなどには売っていない物を食べてみたいと思っていた。住んでいる寮の近くに目をつけていた。好都合だった。友達からは「アダンは食べられる」と聞いていたので、ネットで調べて調理した。

実を切ると、繊維質でベトベトしていて心配になった。炒めてみたら、柔らかくなり、大学イモのようになった。食べるとほのかに甘かった。見た目のせいか、少しイモの味に似ている気がした。

想像以上においしかった。また、別の物も料理してみたい。

ファミリー劇場の予定

10月12日　中之島　和楽器演奏
10月26日　平　島　弦楽四重奏
12月　7日　宝　島　大道芸

スポーツ・レクリエーションの予定

10月12日　諏訪之瀬島　ディスコン
10月26日　中之島　ディスコン
11月30日　悪石島　ラダーゲッター

十　島　村　で　学　ぶ

【平島での成長】

平島学園 6年　北山　悠生

僕は去年，鹿児島県十島村の平島にお父さんの転勤で来ました。来た当時は，鹿児島本土に帰りたいという気持ちや，前住んでいた出水市の友達に会いたいという気持ちもありました。けれど，１年たった今はこの平島が大切な場所になりました。

それは，友達や家族，島民の方々のおかげです。いつも優しく接してくれた中学生の皆さんたち，１つ上の同じクラスだった友だちが仲良くしてくれました。また，家族が優しくしてくれたおかげでとても楽しい１年間でした。なかでも島民の方々は，いつも笑顔であいさつをしてくださり，元気がもらえます。さらに，筍とりや，島豆腐づくりなど平島ならではの行事ができとても楽しく体験をすることができました。運動会の演舞は，団員とたくさん練習したので本番では達成感がありました。しかし練習では，テンポが速く，みんなになかなか追いつけず，苦しかったのを覚えています。家でも姉と一緒に練習をするくらい本気で取り組みました。その結果，島民の方々が笑顔でたくさんの拍手を送ってくれる演舞ができました。

あっという間に１年がたち，令和6年度になりました。平島小中学校は平島学園になり，ぼくは6年生になりました。クラスは，同級生が１人，4年生の2人の複式学級です。去年できなかった穴釣りという行事もすることができ，とても楽しい日々を過ごしています。

これからも，6年生の学習や運動に全力に取り組んで，前期課程をひっぱっていきたいです。

【宝島学園からのメッセージ】

宝島学園教頭　竹中裕樹

宝島学園に赴任して3年目になりました。

海と自然に囲まれたこの島での生活にも慣れ，日々充実しています。

「学校あっての集落，集落あっての学校」といわれるように運動会や文化祭などの行事だけでなく，図工や音楽などの授業に島民の方が講師として学校に来てくださったり，児童生徒が島民の方々にインタビューや職業体験をさせていただいたりと多くの場面で関わっていただいております。島民みんなで子どもたちを育てようとする雰囲気が宝島の素晴らしいところだと日々感謝しています。

教頭として，島民の方々と学校の橋渡しとしての立場でありますが，まだまだ，働きが足りず，反省ばかりの日々です。これから，もっと精進し，第一に子どもの成長のため，そして，宝島学園，宝島の島民の方々の力になっていきたいと思います。

『教職員仲間であるあなた』への　私からのメッセージ

今，ここにある学校で勤務でき，島で生活できるということは「宝」です。子どもたち，島民の方々，同僚の先生方，この地に今この時一緒にいる縁を大切にできたらいいですね。